

整理番号	2022M-	166	補助事業者名	地方独立行政法人 山口県産業技術センター	事業項目名	レーザー顕微鏡
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	---------

別紙 JKA補助事業 2022年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2023	年	3	月	13	日	作成者	松田 晋幸
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業の実施予定表の通り、機種選定委員会、制限付き一般競争入札等を順調に行い、令和5年1月にレーザー顕微鏡を導入することができた。導入後は、関係職員向けのトレーニングを行い、当センターの開放機器利用システムに登録を行い、技術相談、開放機器、依頼試験等の支援サービスを開始した。ホームページへの掲載やリーフレット作成配布等で機器紹介を行い広報に努めた。利用者に対してはアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	入札、契約等を行い、目標より1か月程度早く、令和5年1月に導入することができた。計画どおり、開放機器等の支援サービスが開始できており、実施計画・体制は妥当であった。			4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 令和5年1月	[達成状況] 110%	[具体的内容] 目標値の令和5年2月の導入に対して、1か月程度前倒しで導入(納入・検収)できた。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 1:17時間 2:満足度100%	[達成状況] 1:85% 2:125%	[具体的内容] 1: 利用時間は目標をやや下回った。 2: 利用者の満足度は目標値を超えており、地域企業への波及効果は十分あったと考える。	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1: 218部 2: 1回 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 100% 3: 100%	[具体的内容] 1: 機器紹介のリーフレットを218部配布した。技術相談室受付や導入機器に関する研究会等で配布し、受益者である地域の企業等へ周知ができた。 2: 導入時に、当センター職員に対し電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
	競争・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1: 218部 2: 6箇所 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 150% 3: 100%	[具体的内容] 1: 当センターで刊行しているリーフレットにJKAのマークとオートレースの補助事業を受けて導入したものである旨を記載し、218部配布した。 2: JKAのポスターを補助対象機器を設置している部屋入口3箇所、玄関ロビー1箇所、技術相談室受付付近2箇所の計6箇所へ掲示した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
(5) 自己評価の体制	令和5年3月13日に評価委員会(技術支援部長ほか8名で構成。委員長は技術支援部長)を開催し、成果の目標、達成状況等について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターHPに掲載予定である。				4

(b) 総合評価

総合 評価点	4
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器は老朽化で不具合の発生やメーカーのサポート期間終了により、企業支援業務に支障を来している状況であった。導入する機器については整備機器要望に関する地域企業へのアンケートでは、更新希望企業が多く、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】要望申請に先立ってアンケート調査、企業ヒアリング等を行い、県内企業のニーズを把握した上で必要性の高い機器を導入している。導入後は情報発信を積極的に行うなど、機器利用に努め、県内企業における地域イノベーション及びものづくり技術の高度化・ブランド化、技術課題解決の達成に寄与している。 【課題・改善すべき点】導入は順調に進んだが、導入後の利用状況が目標値をやや下回っており、今後、利用の増加や運用の改善に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	導入した機器は、短波長レーザーと白色光源を併用することで金属材料や樹脂材料等の表面を高解像度かつカラーの3次元形状として観察することが可能。既設機に比べ収差の少ない光学系により広範囲の正確な画像の取得や高解像度化による精細な画像が得られるほか、データの取得時間の短縮、デジタルデータの出力など大幅に機能が向上している。これにより、観察精度の向上と業務効率化を求める企業ニーズに応えることができ、県内企業のイノベーション、製品開発促進、製造技術の高度化に大きく寄与できる。

【公設[機械設備]

整理番号	2022M-	166	補助事業者名	地方独立行政法人 山口県産業技術センター	事業項目名	高精度表面粗さ輪郭形状測定機
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	----------------

別紙 JKA補助事業 2022年度 事前計画/自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2023	年	3	月	13	日	作成者	松田 晋幸
-----	------	---	---	---	----	---	-----	-------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画/自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業の実施予定表の通り、機種選定委員会、制限付き一般競争入札等を順調に行い、令和4年12月に高精度表面粗さ輪郭形状測定機を導入することができた。導入後は、関係職員向けのトレーニングを行い、当センターの開放機器利用システムに登録を行い、技術相談、開放機器、依頼試験等の支援サービスを開始した。ホームページへの掲載やリーフレット作成配布等で機器紹介を行い広報に努めた。利用者に対してはアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	入札、契約等を行い、目標より2か月程度早く、令和4年12月に導入することができた。計画どおり、開放機器等の支援サービスが開始できており、実施計画・体制は妥当であった。			4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 令和4年12月	[達成状況] 120%	[具体的内容] 目標値の令和5年2月の導入に対して、2か月程度前倒して導入(納入・検収)できた。	5
	事業の成果・波及	[達成値] 1:12時間/月 2:満足度100%	[達成状況] 1:80% 2:125%	[具体的内容] 1: 利用時間は目標をやや下回った。 2: 利用者の満足度は目標値を超えており、地域企業への波及効果は十分あったと考える。	4
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1: 218部 2: 1回 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 100% 3: 100%	[具体的内容] 1: 機器紹介のリーフレットを218部配布した。技術相談室受付や導入機器に関する研究会等で配布し、受益者である地域の企業等へ周知ができた。 2: 導入時に、当センター職員に対し電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
	競争・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1: 218部 2: 6箇所 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 150% 3: 100%	[具体的内容] 1: 当センターで刊行しているリーフレットにJKAのマークとオートレースの補助事業を受けて導入したものである旨を記載し、218部配布した。 2: JKAのポスターを補助対象機器を設置している部屋入口3箇所、玄関ロビー1箇所、技術相談室受付付近2箇所の計6箇所へ掲示した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの新着情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
(5) 自己評価の体制	令和5年3月13日に評価委員会(技術支援部長ほか8名で構成。委員長は技術支援部長)を開催し、成果の目標、達成状況等について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターHPに掲載予定である。				4

(b) 総合評価

総合 評価点	5
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器は導入から32年が経過し、現在のJIS規格に準拠した測定を行うことができない。また、測定結果の出力も記録紙へ印刷のみであり、データの活用に制限が多く、企業支援業務に大きな支障を来していた。このような状況から、導入する機器については地域企業へのアンケートにおいても、更新希望企業が多く、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】要望申請に先立ってアンケート調査、企業ヒアリング等を行い、県内企業のニーズを把握した上で必要性の高い機器を導入している。導入後は情報発信を積極的に行うなど、機器利用に努め、県内企業における地域イノベーション及びものづくり技術の高度化・ブランド化、技術課題解決の達成に寄与している。 【課題・改善すべき点】導入も順調に進み、導入後の利用状況は目標をやや下回っており、今後の利用の増加や運用の改善に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってほしい点	導入した機器は金属等の試料の表面に対して針を接触させながら移動させることにより、粗さやうねり、輪郭形状を測定することが可能。既設機器ではできなかった最新のJIS規格に準拠した測定や大きな測定レンジを必要とする曲面形状や段差などの輪郭形状測定が可能で、デジタルデータによる出力にも対応している。これにより、既設機器ではできなかった輪郭形状の測定やデジタルデータの出力など、業務効率化を求め企業ニーズに応えることができ、県内企業のイノベーション、製品開発促進、製造技術の高度化に大きく寄与できる。

【公設[機械設備]

整理番号	2022M-	166	補助事業者名	地方独立行政法人 山口県産業技術センター	事業項目名	マイクロビッカース硬度計
------	--------	-----	--------	-------------------------	-------	--------------

別紙 JKA補助事業 2022年度 事前計画／自己評価書(4/5)

5. 補助事業の自己評価

作成日	2023	年	3	月	13	日	作成者	松田晋幸
-----	------	---	---	---	----	---	-----	------

(a) 個別項目評価

●個別の評価項目について、事前計画／自己評価書(3/5①②) 4. 事前計画 に対する達成状況等を把握し、分析・評価してください。					採点
(1) 受益者 (ニーズ)	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)				
(2) 事業内容	事業の実施予定表の通り、機種選定委員会、制限付き一般競争入札等を順調に行い、令和4年1月にマイクロビッカース硬度計を導入することができた。導入後は、関係職員向けのトレーニングを行い、当センターの開放機器利用システムに登録を行い、技術相談、開放機器、依頼試験等の支援サービスを開始した。ホームページへの掲載やリーフレット作成配布等で機器紹介を行い広報に努めた。利用者に対してはアンケート調査を行い、満足度や要望等の把握を行っている。				
	事業の新規性または継続の必要性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	事業の発展性	2回目の自己評価時に評価してください。(評価様式は別用紙になります。)			採点
	実施計画・体制	入札、契約等を行い、目標より1か月程度早く、令和5年1月に導入することができた。計画どおり、開放機器等の支援サービスが開始できており、実施計画・体制は妥当であった。			4
(3) 達成目標	事業の実施結果	[達成値] 令和5年1月	[達成状況] 110%	[具体的内容] 目標値の令和5年2月の導入に対して、1か月程度前倒しで導入(納入・検収)できた。	4
	事業の成果・波及	[達成値] 1: 21時間 2: 満足度100%	[達成状況] 1: 161% 2: 125%	[具体的内容] 1: 利用時間は目標を大幅に超えることができた。 2: 利用者の満足度は目標値を超えており、地域企業への波及効果は十分あったと考える。	5
(4) 情報発信	事業の実施結果	[達成値] 1: 218部 2: 1回 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 100% 3: 100%	[具体的内容] 1: 機器紹介のリーフレットを218部配布した。技術相談室受付や導入機器に関連する研究会等で配布し、受益者である地域の企業等へ周知ができた。 2: 導入時に、当センター職員に対し電子メールによる機器案内及び機器説明会を実施した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの最新情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
	競争・オートレース補助金による事業であること	[達成値] 1: 218部 2: 6箇所 3: 3回	[達成状況] 1: 145% 2: 150% 3: 100%	[具体的内容] 1: 当センターで刊行しているリーフレットにJKAのマークとオートレースの補助事業を受けて導入したものである旨を記載し、218部配布した。 2: JKAのポスターを補助対象機器を設置している部屋入口3箇所、玄関ロビー1箇所、技術相談室受付付近2箇所の計6箇所へ掲示した。 3: JKA補助対象機器専用ページの作成、HPの最新情報への掲載、HPの開放機器ページへの掲載。	5
(5) 自己評価の体制	令和5年3月13日に評価委員会(技術支援部長ほか8名で構成。委員長は技術支援部長)を開催し、成果の目標、達成状況等について評価を行った。(評価過程の記録として議事録を添付する。)評価結果は当センターHPに掲載予定である。				4

(b) 総合評価

総合 評価点	5
-----------	---

●(a) 個別項目の評価から実施状況等を振り返り、事業全体を評価してください。	
(1) 事前計画(2/5)記載の「補助事業の直接的な目的」を踏まえた、事業全体についての意見・所感	既設機器は導入から20年が経過し、機器の一部が故障し、JIS規格に規定されている硬度測定ができない状況であった。また、老朽化により測定部分を観察するカメラの画像が不鮮明で正確な測定ができない状態となっており、企業支援業務に大きな支障を来していた。このような状況から、導入する機器については地域企業へのアンケートにおいても、更新希望企業が多く、地域企業のニーズに合った機器を導入できたと考えている。
(2) 優れている点・課題、改善すべき点	【優れている点】要望申請に先立ってアンケート調査、企業ヒアリング等を行い、県内企業のニーズを把握した上で必要性の高い機器を導入している。導入後は情報発信を積極的に行うなど、機器利用に努め、県内企業における地域イノベーション及びものづくり技術の高度化・ブランド化、技術課題解決の達成に寄与している。 【課題・改善すべき点】導入も順調に進み、導入後も、想定以上の利用状況であり、特に課題や改善すべき点は見当たらない。今後も、利用数が維持できるように情報発信等に努める。
(3) その他、アピールしたい点、是非知ってもらいたい点	導入した機器は既設機器と比べ、測定部分の観察用レンズや測定用圧子の切り替えが自動化されるなど、効率的な測定が可能になっている他、自社製品に使用する金属材料等がJIS規格を満たしているか否かの材種判定や熱処理などの表面処理条件の違いによる硬度変化を高精度かつ迅速に行うことができる。これにより、高精度な材料硬度測定と業務効率化を求める企業ニーズに応えることができ、県内企業のイノベーション、製品開発促進、製造技術の高度化に大きく寄与できる。